

教員採用試験「合格」までの道のり

宝来 大樹

1. 教員への志望

「現役で合格するのは難しい。」大学生活の中で、この言葉を何度聞いたかわかりません。「本当に教師になれるのだろうか。」と不安でいっぱい的大学生活でしたが、現役での合格を掴んだ今、これから教職を目指す学生の皆さんにとって少しでも参考になればと、合格体験記を執筆させていただきます。

私が教員を志望したのは、叔母が中学校の教員だったことがきっかけです。叔母の教え子が高校の後輩にあり、「先生のおかげで高校に入れた！先生のおかげで国語が好きになった！」という言葉聞いて、生徒の人生や成長に携わることのできる教師という仕事に魅力を感じました。

といっても、私が教員を目指したのは、高校2年生の冬頃。それまでは、看護師を目指していました。高校では、看護師になるために、生物など理系の選択科目を履修していましたが、進路を大幅に変更し、教員免許を取得できる神戸学院大学へ入学しました。

そこで耳にしたのは、教員採用試験の難しさ。「現役で合格するのは難しい。」という言葉も何度も耳にしたことや、新型コロナウイルスの蔓延などが重なり、将来への不安がとて大きかったのを覚えています。途中で、「大学を辞めよう」と考えてしまったこともありましたが、私は「絶対に教師になる」という強い意志をもち、大学生活を歩んできました。この思いを確固たるものにしてくれたのは、学校ボランティアで子どもたちとともに勉強したかけがえのない時間です。

2. 学校ボランティアの大切さ

私が学校ボランティア（神戸市スクールサポーター）を始めたのは、大学3年の夏でした。2学期の始業式に、体育館で当時の2学年の生徒の前に立ち、挨拶をした時の緊張は今でも忘れません。この神戸市スクールサポーターとして活動した約1年半の中で将来の教員生活につながる多くのことを得ることができました。

大学では、理論を学習することはできますが、実際に学校現場を経験するに越したことはないと思います。まさに「百聞は一見に如かず」でした。生徒との関わり方や、授業の展開の仕方、学級経営や生徒指導、進路指導、部活動指導など、今後生きることばかりの有意義な1年半を過ごすことができました。今後、教職を目指す方は教育実習だけでなく、ぜひ学校ボランティアを経験されることをおすすめします。

3. 教員採用試験の対策

教員採用試験では、幅広い知識や技術が求められます。教員採用試験合格に向けて、一般教養、教職教養、専門教養、面接、小論文対策と幅広い対策を行っていかねばなりません。

そこで、ここでは私が意識していた対策のポイントをいくつか紹介したいと思います。

～1次試験に向けて～

①受験自治体を知る

1次筆記試験に向けては、毎日学校や図書館に通い、学習を続けました。また、教職教育サポート室指導員の先生に、古文や漢文の授業をしていただきました。

先ほども述べたように、教員採用試験は幅広い知識が求められます。その全てを網羅するに越したことはありませんが、受験自治体の傾向に絞って学習することが大変効率的であると考えています。私は勉強を始める前に、傾向を確認し、計画を立て、見通しをもった上で勉強を進めました。

②多くの教育問題に触れ、自分の考えをもつ

1次試験の集団面接（自治体によっては個人面接）では、話題となっている教育問題について聞かれることが多いです。私は、新聞やテレビ、教育雑誌を活用してそれらの教育問題について学習しました。また、本学の教職教育サポート室へ行って、学校管理職を経験された先生方とお話する機会も大切にしていました。

単に教育問題をまとめるだけでなく、「自分が教師ならどうするか」という自分の考えをもつことが大変重要だと考えています。

また、友人との模擬集団面接も大変有効です。私は、教職教育サポート室指導員の先生のご指導の下、毎週 Zoom や対面での練習を続けました。自分にはない視点からの意見をたくさん取り入れることができ、受験当日も落ち着いて集団面接に取り組めたように思います。

～2次試験に向けて～

①徹底的な自己分析

「面接で聞かれることは自分のことだから答えられるだろう。」

対策を始めた頃の私の考えは、非常に甘かったです。最初の面接練習はボロボロでした。それから、面接対策ノートを作り、予想できるすべての質問、追質問についてまとめました。できる限り突き詰めた深い自己分析が、合格へつながったと確信しています。

②多くの面接官を知る

教員採用試験の面接官にはさまざまなタイプの方がおられます。だからこそ、多くの面接官を知ることは非常に大切なことだと考えています。私は、採用試験当日までに、学校管理職、教育委員会経験者約15名の方に何度も模擬面接をしていただきました。

当日の面接では、面接官から「よく勉強してきている」と言われるほど、自信をもって面接に臨むことができました。

③「正解」を求めない

個人面接では、「正解」の答えを求めがちです。私も、どのような回答が正解なのかと考

えることがよくありました。しかし、「正解」のようなありきたりな答えでは、自分の良さや個性を面接官に伝えることができないと思っています。

自分が学校現場で経験してきたこと、教育問題についての自分の考えをどれだけ「自分の言葉」で面接官に伝えられるかだと思います。

「正解」を求めるのではなく、自分の経験を自分の言葉で伝えるためには、教育実習だけでなく、より学校の実情を知ることのできる、学校ボランティアが重要だと考えるのです。

ここに紹介したものは、あくまでも一例です。受験生1人1人によって、自分に合う勉強方法は異なるものです。常に「合格するために自分に足りないものは何か」を考え、自分に合った勉強を行うことが、合格への近道だと考えています。

4. 今後、教職を目指す方々へ

教員採用試験は、大変長い道のりでした。何度も逃げ出したくなりましたし、辞めようと思ったこともありました。ですが、教師という仕事は生徒の人生や成長に携わることのできるかけがえのない職業だと思っています。何より、学校ボランティアでともに勉強した子どもたちの姿が一番の原動力でした。

この、教員採用試験合格はあくまでも通過点です。これから先、教員として、子どもたちに寄り添い、国語や言葉の魅力を伝えていきたいと思っています。

今後、教職を目指すみなさんも、決して夢を諦めることなく、同じ夢を目指す仲間と共に、自身の目標へ向かって歩んでほしいと思います。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。みなさんの大学生活が、充実した有意義なものになることを願っております。